

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## 目線を変えて周りを見て

### わたし色

生活情報誌「悠悠と。」  
編集長・真鍋康利さん



前回(2月15日付)、本の

ことを書いたら、「おいしいものより本が好き」という友人の山本博子さんから「私は単行本に限る」との感想が届きました。

彼女は私と同じ68歳。33年ほど前、交通事故で頸椎を損傷、車いす生活を余儀なくされています。本を読むときは、介助の方に単行本のペーシを一度開いてくせをつけてもらい、わずかに動く右人さし指を駆使してめくりまわす。文庫では、うまくいかないそうです。

不自由な手を動かすため、紙の端で手を切ることがあり、指先や時には本にも血がついてしまうことも。読み終わった本は、もう一度読みたいものを除き、古新聞と一緒に運命をたどります。最近の書店では、店長お薦めベスト〇〇など話題の本が見やすく紹介されているので、参考にしているとのこと。便利になったと喜んでいました。



「悠悠と。」では「飛び出せ！車イス」、後に改題し「きまぎらふらっと車いす」というコーナーを連載してきました。バリアフリーのお店や施設を彼女と一緒に訪問して紹介するもので、2002年6月号から14年以上続きま

した。

これはどういってお店を訪問したのですが、当初はバリアフリー対応と謳われていたにもかかわらず、困ったことも多くありました。気持ちにはあっても、何に困るの十分理解されていなかったのだと思います。

例えば、これぐらいの段差なら大丈夫だろうと思っても車いすでは乗る越えられない、エレベーターの幅が狭く電動車いすが入らない、引き戸ではないドアは押すことも引くこともできない、トイレは立派でも通路から直角に曲がって入れない、車いす専用駐車場完備となっていない、いつも満杯などなど。

彼女と一緒にいて多くのことを知ることができました。特に腰をかかめ彼女と同じ高さの目線になると、スイングドアは顔の高さに跳ね返ってきて怖い、棚の上の方が見えない、テレビ塔などの展望台はちようど目の高さに手すりがあり全く見通しがきかないと初めて気づきました。



平成の初めのころから見ると最近はずいぶんよくなりました。訪問していろいろ話をしたある店から後日連絡が来て「できる限りの改造をしたいのでもっと詳しく教えて欲しい」とのこと。早速打ち合わせに加わりましたが、素早い対応に感激したものです。子供でも、年を取って腰が曲がった老人でも、同じように見えるはず。ちょっと目線を変えて周りを見てみることも必要だと思いませんか。